

シンポジウム「わが国の労働安全衛生政府統計の現状と利活用の課題」

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同
パブリックヘルス科学分科会
2. 共 催 第 81 回日本産業衛生学会
3. 日 時 平成 20 年 6 月 27 日（金）13：30-16：30
4. 場 所 札幌コンベンションセンター 中ホールB
（札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1 - 1 電話 011-817-1010）

5. 開催趣旨

日本学術会議パブリックヘルス科学分科会は、衛生・公衆衛生学領域における学術研究の一層の促進を図るための重要な課題の一つとして、「疫学・統計データの有効な活用と個人情報保護」を取り上げることとし、シンポジウム等を開催して幅広い関連領域の専門家等との討論を積み重ねた上で、日本学術会議として第 20 期の終了時（平成 20 年 9 月）を目途に報告書を取りまとめることとした。この趣旨に沿って、第 1 回目のシンポジウム「衛生・公衆衛生学における学術研究と個人情報保護－疫学研究・統計調査の円滑な推進とデータの有効活用のために－」を平成 19 年 3 月 28 日に開催し、第 2 回目のシンポジウム「今後の政府統計のあり方とその有効活用」を平成 19 年 10 月 24 日に開催した。これらを踏まえ、今回は「わが国の労働衛生政府統計の現状と利活用の課題」をテーマに第 81 回日本産業衛生学会時にシンポジウムを開催し、わが国における産業保健および労働関連領域における政府統計の現状とその利活用のあり方について討議し、論点を整理することとした。

6. プログラム

(1) 開会挨拶

實成文彦（香川大学医学部人間社会環境医学講座教授、日本学術会議連携会員、同パブリックヘルス科学分科会副委員長）

(2) 司 会

小林章雄（愛知医科大学医学部衛生学講座教授、日本学術会議連携会員、同パブリックヘルス科学分科会幹事）

小林廉毅（東京大学大学院医学研究科公衆衛生学分野教授、日本学術会議連携会員、同パブリックヘルス科学分科会幹事）

(3) 報告者

- 1) 日本の労働安全衛生統計と統計法改正について
秋山恵一（厚生労働省大臣官房統計情報部賃金福祉統計課課長補佐）
- 2) 疫学研究者からの要望－職業がんなどを例に
毛利一平（独立行政法人労働安全衛生総合研究所 主任研究員）
- 3) 日本の労働安全衛生政策立案、政策評価に何のデータが足りないか？
矢野栄二（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）
- 4) 世界的な比較ができる統計の重要性－頸肩腕障害などを例に
中田 実（金沢医科大学社会環境保健医学 講師）
- 5) グローバルな視点で今後、何をどう改善充実すべきか？
小木和孝（財団法人労働科学研究所 主管研究員）

(4) 閉会挨拶

岸 玲子（北海道大学大学院医学研究科公衆衛生学分野教授、日本学術会議第二部会員、同パブリックヘルス科学分科会委員長）

7. その他

事前の申し込みは必要ありません。当日、先着順で定員200名です。